



**夢は自然と幼稚園の先生になった**  
小学生のころから、近所の下級生の子どもたちと一緒に遊んでいました。大人になった今でも、子ども好きな自分の性格は変わりません。だから、自然と自分の将来の夢は、子どもとふれ合える職業に就きたいという

episode  
**1**

**大好きな子どもとふれ合える  
幼稚園の先生になりたいです**



**黒田紀芳さん**

(藤川・16区)

くろだあきよし●1990年生まれ。高校卒業後大学に進学。社会福祉学部人間福祉学科で、幼稚園教諭の資格取得を目指して実習など勉強の真っ最中。趣味は、イラストを描くことなど。

ものになっていました。高校進学後は幼稚園の先生になるという具体的な目標もできました。自分にとっての、あこがれの職業です。

高校3年生のとき、自分の進路について担任の石井洋之先生に相談したところ、先生は自分の目標が、幼稚園の先生になることなのだから、そのためにも専門的な勉強ができる学校に進んだ方がいいとアドバイスしてくれました。今振り返ると、本当に先生の後押しには感謝しています。大学に入学して、自

街角特派員レポート

**若者未来予想図**

*My Dream*

緑の芽吹きとともに、新年度のスタートとなる4月。真新しい制服やスーツを着た初々しい若者たちの姿を目にする機会も増えてきて、見ているこちらの気持ちまで、温かくなる季節になりました。今回の街角特派員レポートは、そんな若者たちに焦点をあててみたいと思い企画しました。自分の夢に向って進み続ける若者、新たな一步を踏み出す新任の先生、そして、世代を超えて夢を受け継いだ若き植木職人。分野の異なった5人の若者たちを紹介していきます。

分の目標のために勉強ができる、今はとても楽しいです。

**周りの人たちに本当に感謝**

「働くことは、時につらいことがたくさんあるけれど、子どもたちの笑顔を見られるから頑張れる」と先輩が語ってくれたことがありました。

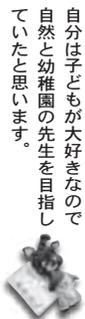
自分もそう思うように、いつか言葉をかけてくれる先輩になりたい。

今振り返ってみると自分は、周りの人たちに本当に恵まれていました。進路で悩んだときに、アドバイスをくれた担任の先生、目標にした幼稚園の先生、

周りの人たちのおかげで、自分の道に進めるのだと改めて感じます。そして、こうして大学にいけるのも両親のおかげです。本当に感謝しています。

**子どもたちのことを第一に考えられる先生になりたい**

現在、幼稚園教諭の資格をとるため勉強中です。アルバイトをしながらですが、精一杯頑張りたいです。研修などで幼



姉の子どもは、今年生まれたばかり。赤ちゃんともふれ合うのも大好きです。また、大学の研修で、乳児院に行くこともありますが、赤ちゃんともふれ合うのは、とても楽しいです。



園に行くこともあるのですが、子どもたちと一緒に遊んでいると、やっぱり先生になりたいですね。その気持ちは、多分ぶれることはないと思います。大学を卒業して、はれて幼稚園の先生になれたら、子どもたちのことを第一に考えられる先生になりたいです。また、先輩の先生ができて、指導者の立場になったら、温かい指導のできる先生にもなりたいと思います。自分にとっての目標ができれば、ただそれに向って精一杯頑張るだけ。自分の目標がそこにあるのだから。



街角特派員  
**黒田美香**  
(藤川・16区)

episode 3

# 聴く人の心に響き残るような歌詞を伝えることのできる歌手になりたい



歌は自分の思いを伝える手段。自分の曲を聴いてくれた人の心に何か一つでも、歌詞のフレーズが残ってほしい。

自分のこれからの進路を一変させる出来事が昨年起こりました。一番親しかった後輩が突然事故で、亡くなってしまったのです。趣味のダンス仲間であり、弟のような存在だった後輩。その死は、自分に強烈なショックを与え、とても辛いものでした。  
やりたいこともたくさんあったはずですが、まだ若いのにその輝かしい未来が、突然なくなってしまうのです。後輩の死をきっかけに、自分の考え方も変わってしまいました。  
たった一度きりの人生。好きなこと、自分のやりたいことを見つけてチャレン

## きっかけは一人の後輩の死

だから、高校に進学後も、ギターと歌は継続できたと思うのです。

### 松波寛さん (前谷東原・2区)

まつなみひろ ●1990年生まれ。現在は、歌手を目指しライブハウスなどで演奏活動中。歌詞を重視したメッセージ性の強い、オリジナルの楽曲も製作。趣味は、ブレイクダンスなど。



## ギターを継続できた理由

ギターを自分の手で本格的に演奏したいと思ったきっかけは、中学1年生のときです。3学期の終業式だったと思います。担任の先生が、ギターの弾き語りで、森山直太朗の「さくら」を歌ってくれました。その先生は終業式の後すぐ、中

学校を去ってしまいました。あのとき、自分も一緒にギターを弾けていたら、本当に悔しかったです。

それから毎日3時間は、ギターと歌の練習をしました。中学2年生のときには、卒業生を送る会で、歌を披露する機会に恵まれました。熱唱した後の歓声と拍手がとても気持ちよく、最高だった…。

episode 2

# 介護福祉士になって利用者の皆さんを幸せにしてあげたい

## きっかけは一人の先生のこと

当時高校生の私は、保育士を目指そうかと考えたこともありましたが、これからは高齢社会を迎えるので、介護福祉士の需要も高まり、重要な職業になってくると考えました。  
そのときは、漠然とですが就職口も多



### 及川友恵さん (藤川・16区)

おいかわともえ ●1991年生まれ。高校卒業後、介護福祉士になるため専門学校に進む。現在、資格取得を目指し、施設などでの研修も真っ最中。趣味は、加藤ミリアの曲を聴くこと。

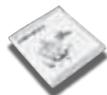


くあっていいのかも、なんてぐらいにしか考えていませんでした。

高校3年生になり、本格的に自分の進路を決めなくてはならなくなった時期。私が本気で介護福祉士を目指すきっかけをくれたのは、一人の先生のことでした。「介護福祉士の幸せは、利用者のおじいちゃん、おばあちゃんだけではなく、その家族みんなを幸せにしてあげられることだ」と思います。

私の高校に専門学校のカンダンスにきてくださった野田敦史先生のことば。当

一人の先生との出会いが介護福祉士になりたいというきっかけになったのです。



時、大泉保育福祉専門学校福祉課コースの学科長をされていた先生のことばが、私の心に強く響いたんです。野田先生のいう学校で介護の勉強をしたい、そして、いつの日か介護福祉士になりたいと、本気で思ったのです。

## お年寄りとのふれ合いが楽しい

介護福祉士の資格は、国家資格になるため正直言って大変です。でも、自分が好きな勉強ができる今は、楽しいと感じています。

また、実習で施設に行くこともありますが、私の家は、おじいちゃんとおばあちゃんと同居しているの、お年寄りと接するのは、それほど大変なことでもありません。それに私の地区は小さいことから、知らないお年寄りでもあいさつすれば、自然とあいさつが返ってきて、コミュニケーションがとりやすい環境でした。だから、施設のお年寄りとも、何の違和感もなく、楽しくコミュニケーションはとれています。

次は、施設に泊まりこんでの研修があります。ちょっと不安もありますが、持ち前の明るさで頑張りたいです。

## 理想の介護福祉士を目指して

過酷な現場、離職率の高い職業、介護福祉士。あえてその職業に夢を抱くのは、一人の先生との出会いがあり、自分の理想の介護福祉士になる夢があるからです。現在はアルバイトをしながらですが、勉強を一生懸命頑張っています。

利用者が快適に過ごせる環境作りができて、視野の広い介護福祉士になりたいと思います。そして、何より私の夢は、利用者のおじいちゃん、おばあちゃんだけではなく、その家族みんなを幸せにしてあげられる介護福祉士になることです。



↑専門学校には、実際の施設と同じような介護実習室も完備されています。生徒たちは、本番さながらの実習を、学校にいないながら、体験することができます。



介護福祉士になるための専門的知識や技術を学んでいます。また、特別養護老人ホームなどの施設での実習もあります。国家資格を取得し、卒業して介護の現場で、仕事することが夢です。



## 聴く人の心に自分の思いを伝えたい

現在、ライブハウスなどで演奏活動中。オーディションも受け続け、毎日何時間もギターの練習をしています。だから、ギターを弾かない日があると、その日は気持ち悪く調子がでないですね。それくらい生活の一部になっているんです。  
歌は自分の思いを歌詞に乗せて伝える手段。聴く人の心に一つでも自分のメッセージが残ってほしい。そんな自分オリジナルの楽曲を作り続けていきたい。  
そして、いつの日か聴く人の心に響き残るような歌詞を、伝えることのできる歌手になりたいです。

episode 4

# 子どもたちの前では常に明るい 笑顔主義の先生であり続けたい

## 教師の道を目指したきっかけ

高校進学後、私は美術が好きだったので、美術をいかした道に進みたいと考えていました。進路について悩んでいるときに、信頼している先生が、親身に相談のつてくれました。その先生とは、今



でも連絡を取り合って悩みを相談するくらい仲良しな先生です。

先生にもらった分、いつか自分も教師になって、後輩たちに返してあげたいと、気持ちも変化したと思います。だから、大学は美術もできるし、教員も目指せる大学の教育学部美術専修に進学しました。しかし、自分は美術の方に進むべきか、学校の先生になりたいのか決めかねている間に、本格的な就職活動が目前に！

そんなとき、教育実習の最終日に担当したクラスの小学3年生の男の子が「宮下先生が、一生懸命教えてくれたので、ぼくも一生懸命授業中、手をあげました」と私に手紙をくれたんです。教師が一人の生徒に与える影響力って、すごいと本の



学校の子どもたちには、明るく笑顔で接することを心掛けています。一人の教育者として、子どもたちにどう向き合おうべきか、毎日が試行錯誤。いろいろな家庭環境で育った子どもたちや保護者の考え方もさまざま。今は目の前のことを、精一杯頑張るだけです。



教育実習での出来事。私を教員の道へと進めてくれたのかも知れません。

当に感動したのを覚えています。

きっかけは、教育実習での小さなことかもしれないですが、教師という職業に進みたいと、本気で思った瞬間でした。

## 新任の先生として教壇に立つ

教員試験に合格するまでは、本当に苦しかった。大学在学中の一年目の試験は、不合格。卒業後、何とか担任外の臨時教員に採用されましたが、教壇に立ちながら受験勉強の毎日。学生のときより勉強していたかも知れません。

でも、働いている小学校の校長先生をはじめ同僚の先生がたの励ましや、アドバイス、そして応援してくれた人たちに恩返しするためにも、今回の教員試験は絶対合格して、小学校の先生になる。その決意で試験に臨みました。

合格発表のとき、自分の受験番号を見つけ、とてもうれしかったと同時に新たな責任の重さを感じました。4月からは正規の教員として、埼玉県の小学校に赴任も決まりました。これからは、さらなる夢への第一歩だと、決意を新たにしました。



宮下妙子さん (鶴新田・14区)

みやしたたえこ ●1986年生まれ。大学卒業後、臨時教員をしながら教員試験に合格。4月からは、新任の教師として埼玉県の小学校で担任を受け持つこと。趣味は、美術鑑巡りなど。

## 子どもたちの前では常に明るい 笑顔主義の先生でありたい

教師として教壇に立つ、自分が本当に教師として向いているのか、不安になることもあります。

でも、今はとにかく目の前にあることを一生懸命頑張るしかない、自分自身にそう言い聞かせています。子どもたちの前では常に明るい笑顔主義の先生でありたい、それが私の描く教師像です。



## 家業の造園業を受け継ぐ三代目

自分の家は、祖父の代から造園業を営んでいます。仕事を間近でいつも見ていたのが、高校も何となく、造園に関係するコースがある高校へ。卒業後は、迷わず園芸学部がある2年制の大学に進学。このときには、自分が家業の造園業を継ぐものだと思っていました。

父親は自分が家業を継ぐことについて、何も言いませんでした。普段無口な父親なので、心の中では喜んでいたいと思います。ただ母親だけは、会社に勤めて働いている方がいいと、サラリーマンになること



造園や庭木の手入れの仕事のほか、現在はブロックを積みんだり、カーポートや車庫なども建てたりします。庭を総合プロデュースする、ノウハウも必要になってきています。

episode 5

# 真心込めた匠の技で造園業の トップランナーを目指したい

をいつまでも進めてくれました。でも、自分でつくった庭を眺めると、なんといつても気持ちがいい。この仕事に自分には一番向いていると感じます。

## 真心込めた丁寧な仕事を目指して

現在、造園業界も不況で、お客さんも減少傾向。家を新築しても庭木を植えない人、手入れを頼むとお金がかかると、自分で庭木を切ってしまう人など。庭にお金をかけなくなってきました。

## 神谷幸司さん

(光善寺・15区)  
かみやこうじ ●1983年生まれ。植木職人。家業の造園業を受け継ぐ若き3代目。お客さんのことを考えた、真心込めた丁寧な仕事を目指している。趣味は、スノーボード、バイクなど。



でも、昔ながらのお客さんを大切にしたい真心込めた丁寧な仕事で、うちの売りだから、小さな仕事でも手を抜かせません。自分のつくった庭が、お客さんに喜んでもらえるのが何よりですから。



庭木の手入れをするときは、常に真剣勝負。お客さんの「神谷さんに庭木の手入れをやってもらってよかったよ」の一言が職人としては、何よりうれしいです。

## 狙うは造園業のトップランナー

祖父そして父親とリレーしてきた造園業。祖父の代からの常連さんを大切にしながら、自分の腕を磨いていきたいです。第一にお客さんが喜んでくれるような造園、やってもらってよかったと思わせる仕事をしたいですね。

現在、一級造園施工管理技士と一級造園技士の資格をとるために勉強中。来年は資格取得を目指して頑張りたいです。そして、いつの日か造園業のトップランナーになりたいです。

## 取材を終えて感じたこと

今回の街角特派員レポートでは、新年度の始まる月である4月号ということなので、邑楽のキラリと輝く若者たちを取材しました。

年々、日本全体の少子化が進んでおり、その上「夢や希望がない若者が増えていく」と耳にすることもあり不安があります。でも、実際に若者たちと会って話を聞いて、希望の光が見えた気がします。彼らは目指すものがあり、努力し前向きに生きています。その姿は若さの中にも凛とした強さがあり、何より全員が目がキラキラと輝いていたのです。

若者と直接対面して、話を聞かせてもらうことで、活力をもらったような気がします。情熱的に語る彼らの言葉に胸が熱くなり、うれしくて涙ぐんでしまうほどでした。そのような若者がいるならば、邑楽町の将来も期待できると確信し、不安が希望に変わった瞬間でした。

だからこそ、私たちは若者を将来のすべてを背負ってもらうのではなく、若い彼らを支援し、互いに協力し合って、力を合わせて今後の邑楽町や国の未来を考えていかなければならないと思うのです。この記事を読んだかたに、彼らの熱い思いが伝わって、さらに明日への活力につながることを、うれしく思います。

最後に、今回の取材に快くご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございます。

街角特派員 黒田美香